

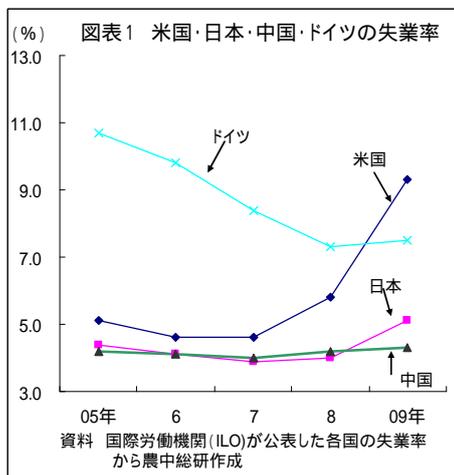
中国の失業率統計

王 雷軒

実態と乖離する中国の失業率の水準

失業率は、経済政策を決定するときに注目される重要な指標の一つである。中国でも、政府が公式な失業率を発表しており、経済政策決定での「四大コントロール目標」の一つとして重要視されている。

政府機関の一つである中国人力資源社会保障部（和訳：人事社会保障部）が失業率を公表しており、それによると、05年から09年まで4.0%～4.3%の間で推移している。この数値を見る限りでは、決して高いものではない。また、景気の大きな変動を受け雇用情勢が厳しくなったと言われる08年、09年においても、失業率の変動幅が小さく、景気変動に対して中国の失業率が非感応的なものであると言わざるを得ない。



失業率についての定義や調査方法は各国ごとに相違があるため、国際比較が安易にできないが、中国の失業率は先進国に比べてもかなり低いものとなっている(図1)。

特殊な中国の失業率の定義

人力資源社会保障部の失業率指標は、職

業紹介センターといった就業機構に登録し、失業保険に加入する都市部の都市戸籍を持つ労働者のみ(男16～50歳、女16～45歳)を対象としている。失業者の対象範囲がかなり狭く、都市部の出稼ぎ労働者(農民工)や農村部の失業者が、この統計に含まれておらず、実態よりもかなり低くなっていると思われる。

08年の失業率は4.2%で、登録失業者は886万人であり、これらから中国の労働者人口を推計すると、2.1億人にしかならない。7.9億人の労働者人口を持つ中国の実態とかなり離れかけている。

したがって、現在公表されている中国の失業率は、都市戸籍者の失業状況のみを反映し非常に限界的なものであると理解すべきである。

標本調査による失業率の公表

中国社会科学院は、出稼ぎ労働者も含めた標本調査に基づいて、08年の失業率を9.4%と発表している。さらに、中国人民大学のある教授は、失業率計算の国際基準に沿って失業者を推計すると、中国の失業率は27%以上であると指摘した。

現行の失業統計の限界性を認識した中国政府は、全国レベルで農村戸籍者をも対象に組み入れた標本調査を実施している。しかし、標本調査から得られた失業率の数値は、政府に報告するだけの内部資料として使われており、現段階では対外公表されていない。今後、2011年～2015年(第12期5カ年計画期)の間には、この標本調査による失業率が公表される見込みである。